

1. 福岡女学院大学の前史

(1) 福岡女学院の建学

福岡女学院は、1885年米国の女性宣教師ジェニー・ギールによって、「福岡英和女学校」として福岡の地に開設された。以後、「福岡女学校」（1919年）、「福岡女学院」（1948年）と校名を変え、様々な危機を乗り越えつつ、ミッションスクールとして女性の地位向上と日本の近代化に開拓的な貢献を果たしてきた。その間、財政危機や、太平洋戦争前、中の圧迫を受けながらも、戦後は順調に発展し新制の中学校・高等学校として発展を遂げてきた。その間、約12万㎡の広大な敷地を福岡市日佐の現在地に得て、幼稚園を併設し、総合学園としての環境が準備された。

(2) 福岡女学院短期大学の発足

福岡女学院は、創立当初から建学の精神の中に高度の女子教育を目指すことを謳っていた。1964年、英語科、家政科160名の定員で発足した短期大学は、時代の要請を受けて急速な発展を見、1985年には国文科を増設し、多くの優れた卒業生を輩出した。

2. 福岡女学院大学の発足

(1) 人文学部の発足

創立以来福岡女学院が抱いてきた、最高の女子教育機関を実現するため大学開設が計画された。しかし、政令都市における「工業（場）等制限法」の制限により、止む無く現在地より25km南に位置する小都市に、1990年大学人文学部が開設されることとなった。

人文学部の基本理念は、人類文化の伝統の中から、人文学を中心とした学問領域を踏まえ、総合的、かつ国際的視点を重視する人文学の教育・研究を行ない、時代の文化的・社会的課題に応えるものとした。このために、日本文化学科と英米文化学科の2学科を設け、教育・研究の内容を①言語②文学③思想・宗教の3領域として特色あるカリキュラムを編成した。

(2) 人間関係学部の発足

短期大学部の改組転換を図り、福岡女学院に相応しい大学学部として、1999年日佐の現在地に人間関係学部を発足させた。学部設立の目的は、急激に変化する社会構造と人間関係の中での自立した生き方を探求し、現代の様々な人間関係に光をもたらすような人材を育成することにある。人間関係学科では、人間関係を主として心理学的側面から探求する中から教育・研究を行ない、人間発達学科では、幼児期を捉えつつ人間の発達とそのケアを教育・研究することを目指すものである。

(3) 人文学部の改組

日本文化・文学に対する若者の関心や興味の低下を受けて人文学部は2001年学部改組を行ない、学問研究の基本路線は継承しつつ、新たな視点を取り入れ、学科を改め「現代文化」・「表現」の2学科を開設した。さらに、2003年には「英語」学科を加えて3学科体制とした。

(4) キャンパス移転と新しい大学運営体制

政令都市の大学設置規制が解除され、大学全体の協力と発展を期して、2002年小都市のキャンパスを廃し、人文学部は福岡市の日佐キャンパスに統合された。これにより、福岡女学院大学創設以来の悲願であった、幼、中、高、大の総合学園体制が完成した。これにより、大学および学

院の一体感が強まり、一貫教育の体制が準備され多様で効率的な教育が可能な環境が整った。

(5) 新しい運営体制

これより先に、短期大学は1999年短期大学部と名称変更され、組織は異なるが、大学の2学部と合わせて3学部一体の運営体制が構築された。学長は大学・短期大学部の両方を兼ねることとなり、学部長会議、部長会議、連合教授会と3学部の協力体制が完成した。これにより、施設設備の共用、大学運営や教育・研究における効率化が図られることとなった。

(6) 大学院の開設

このような学部学科の充実の中で、2003年大学院人文科学研究科を開設した。研究科は、人文学部と人間関係学部の2学部の上に立てられ、比較文化専攻と臨床心理学専攻の2専攻である。臨床心理学専攻は第一種指定大学院に認定されている。

3. 福岡女学院大学の特徴

福岡女学院大学は福岡の地域に確かな根をはり、大学院設置までの道のりを、福岡女学院の長い伝統の中で温められて発展してきた大学である。福岡女学院としては3万人の卒業生を送り出している。伝統に支えられ、様々な形で地域に支えられると共に大きな貢献をなしてきた。

福岡女学院大学の特徴を挙げれば、

- ①私立のキリスト教に基づく教育
- ②女性教育
- ③長い伝統と地域に深い関わりを持つ学園
- ④語学、人文学、人間学を教育研究の目的としている
- ⑤幼稚園、中学校、高等学校を含む総合学園である
- ⑥広大な敷地を持ち、緑と自然の優れた環境の中にある

本自己点検・評価は、本学の上記のような歴史と特徴を踏まえつつ、なされるべきものとする。大学としては短い歴史ではあるが、建学の精神は長く確固としたものの上に据えられている。本学のおかれた状況は、建学の精神の長い歴史の中で変えてはならないものと、時代の挑戦の中で変えなければ生き延びることができないものとのせめぎ合いの中にあると思われる。

そのような中で、大学の発展を期していくには、現状に対する冷静な批判を自らに課していかなければならない。自己点検・評価の作成作業はそのような契機として、大学の構成員全員がこれに関わるべきであろう。

本学の現在のキャッチフレーズは「福岡女学院は人を育てる大学です」としている。学生を大きく成長させていく機関として、自らも成長していく大学を目指すために、自己点検・評価を進めていきたい。